

## 私の本の思い出

情報通信工学科 塩沢 隆広

全く読書家では無い私が、図書や図書館について書くのはおこがましいですが、指名なので、締切りも迫りやっとな筆をとることにしました。

図書と言われて、最初に心に浮かんだのが、何故か数十年前の思い出でした。それは、私が小学生だった時のことです。それまで、作文で褒められたことなど無かった私が、何故かそのときは、読書感想文が取り上げられ、全校生徒向けの昼の校内放送で読書感想文を読むことになりました。「フェアブル昆虫記」の読書感想文でした。何故私の読書感想文が選ばれたかと言うと、選んだ先生の評価では、「本の内容だけでなく、フェアブルの研究態度について感想を述べている点が良かった。」そうです。フェアブルのどういう研究態度について書いたかと言うと、フェアブルは、他の研究者の昆虫記を出来るだけ読まない様にしていたということでした。先入観を持って昆虫を観察することで、間違った結論を出さない様にするためだそうです。本を読まないことを書いた読書感想文が評価されたと言うのは、少し皮肉ですが。

こんな思い出話を書いたのは、「先入観を持たないために本を読まない様にしよう。」と言いたかったのではありません。本から得るものは十人十色で人により異なりますが、何かしら得られるものがあるのではないのでしょうか。最近の私は調べ物が無い限り図書館へ足を運ばなくなってしまいましたが、映画やテレビに触発されて、「怪盗ルパン」や「シャーロック・ホームズの冒険」といった小説を読んだこともありました。ホームズの物語の舞台は、19世紀後半のイギリス・ヴィクトリア朝時代です。その頃は日本ではやっとな新橋ー横浜間で鉄道が開通した頃だと思いますが、ホームズ達が交通手段として頻繁に鉄道や地下鉄を利用していることから、イギリスでは既に鉄道網が発達していた様子が伺えます。また、物語では通信手段として電報が多く使われています。時には犯人逮捕のための急を要する重要な情報なども電報を使って送っています。今でこそ電話やメールが発達し、祝電ぐらいしか使い道が思い当たらない電報ですが、当時は早く有効な通信手段だったのでしょう。小説としての面白さだけでなく、意外に勉強になることを教えてください。

更に興味を持って調べれば、思わぬ雑学を得ることもあります。そんな1つを紹介しましょう。ホームズが住んでいたベイカー街は、作品が書かれた当時、85番までしか無く、221Bというホームズの住所は架空のものだったそうです。しかし、その後街が発展し、現在は221Bが存在しています。そこにはABBEY NATIONALという会社があるそうです。これがイギリス人のセンスなのかどうか、この会社にはホームズの秘書がいて、毎日の様に届くホームズへの依頼の手紙に返事を出してくれるそうです。私は英語に自信が無いので、出してみたことはありませんが、英語に自信のある方は一度ホームズへの依頼の手紙

を出してみてもいいでしょうか。

最後に読書家の学生諸君へ、「時には、教科書と専門書を読むことも忘れないで下さい。」